



「みなさんの運動に感謝する」

県内27すべての首長・議長が新署名に賛同 原水協キャラバン

岡山県原水協は3月15日～24日にかけて、岡山県内27の市町村を訪問し、首長・議長さんから「核兵器全面禁止のアピール」署名をいただき、被爆の実相の普及、平和行進・世界大会の成功へ向けての要請などをおこないました。

その結果27すべての自治体の首長・議長から賛同の署名をいただきました。

懇談の中で「大変だが誰かがやらなければならないことをやっていただいて感謝する」（西田勝央町長）「長い間の苦労もあると思うが、気持ちの面でも折れることなく頑張っていたきたい」（道上西栗倉村長）など運動へのねぎらいのことばとともに「核兵器廃絶は世界の流れ」「できる限りの協力をしたい」などのことばもいただきました。



美咲町で懇談しました。中央定本町長、その左三船議長 手前は染山町議 (3/24)

放射能の恐ろしさがわかったのでは 「『安全神話』が崩れた」 原発問題でも懇談

今回のキャラバンの特徴は、3月11日に発生した東北関東大震災直後の行動であったことと同時に、福島原子力発電所の事故の被害が拡大しているさなかの訪問であったことです。

どこの自治体でも原発事故を厳しく受け止めていました。

「仁科博士の遺志を受け継ぎ、核の平和利用が基本だ。兵器としての核は不要」（里庄町）「想定外ということではだめだと思う」（津山市）「大震災でも原発で放射能の恐ろしさがみんなわかったのでは。平和利用と言えども問題がある」（勝央町）「『安全神話』などないことが世間にも認知されたのではないか」（美作市）などなど、今回の事故に対して厳しく指摘されました。

また、電気エネルギーの30%を原子力に依存している現状についてもこのまま原子力発電に依拠していいのか、24時間電気を浪費する生活環境の見直しなど、国民的議論が必要であることなど懇談しました。

原爆写真展 協力したい

要請の中では「被爆の実相の普及」について行政の協力をという項目でも懇談しました。原水協が「地域原水協などと協力し、原爆写真展などをぜひやりたいので協力を」とお願いすると、総社市、瀬戸内市、備前市、赤磐市では「計画があれば相談にのりたい」（瀬戸内市）「市民センターがいいのでは。協力したい、応援する」（備前市）「場所的には公民館がいいのでは」（赤磐市）など積極的な話になり、同席していた地域原水協の代表は会議を開いて早速具体化したいと話していました。



写真は上から、吉備中央町で署名を受取る三村高梁原水協理事長、津山市で署名を受取る美作原水協の西田前事務局長、新庄村の笹野村長から受取る平井事務局長。